

共創イノベーションワーキンググループの 進め方について

令和元年11月21日
事務局

<調査・検討の進め方>

- 共創イノベーションワーキンググループの議論に資することを目的として、共創イノベーションワーキンググループの検討項目について、別途関係者によるラウンドテーブル/ヒアリングを実施。
- 各検討項目及び関係者を次ページ以降に示す。
- 本ワーキンググループでは、ラウンドテーブル/ヒアリングの場では出された意見も踏まえ、国及び国研が実施する研究開発において得られた成果の社会実装を促進するための方策等についてとりまとめを行う。

＜検討項目①＞ 研究成果の社会還元が求められる中で、技術シーズを社会実装するオープンイノベーションの方策はどうか。

＜論点＞

- ・国内外の研究開発動向や市場動向等を継続的に把握し、戦略策定に反映する方策
- ・技術シーズと社会ニーズのマッチングに関して、より効果的・効率的に取り組む方策
- ・ICTの研究成果による社会課題解決・地域課題解決する方策 等

【関係者】

社会実装に取り組む研究者、研究シーズから社会実装に繋げる事業関係者、NPO（地域課題解決に向けた取組みを実施） 等

＜検討項目②＞ 研究開発や技術がベースとなるICTスタートアップ・ベンチャーを如何に創出し、成長の軌道に乗せられるか。

＜論点＞

- ・「死の谷」を越えられない研究開発型スタートアップ・ベンチャーに対する政府の支援方策
- ・研究開発法人発ベンチャーの創出や支援の活性化方策 等

【関係者】

ベンチャーキャピタル（VC）、スタートアップ/ベンチャー、大学（産学連携関係者） 等

2. 検討項目及び関係者

<検討項目③> 社会に新たな価値を生み出すハブとなる産学連携拠点をどう形成していくのか。

<論点>

- ・新たな産学連携拠点形成の方策
- ・NICTが整備するネットワーク等のテストベッドの在り方 等

【関係者】

産学連携関係者（大学、通信事業者、通信機器ベンダー等）、NICT 等

<検討項目④> 技術の進展・普及のスピードが加速する中で、政府の研究開発制度の設計はどうあるべきか。

<論点>

- ・ICT分野における研究開発支援制度の現状も踏まえ、持続的にイノベーションを創出するICTエコシステムを形成するための方策 等

【関係者】

検討項目①の関係者、総務省の研究開発プロジェクト受託者

<検討項目⑤> イノベーションを生み出す源泉である「人材」について、どのように優秀な人材を確保し、人材交流等を通して人材育成を図っていくのか。

<論点>

- ・ICT分野において魅力ある研究開発環境整備や人材育成の方策
- ・大学、企業、研究開発法人間、異なる研究領域間の人材交流等を活性化する方策 等

【関係者】

検討項目③の関係者、その他大学等の研究者

3.スケジュール

